

## 緑生研究所って、どんな会社…?

### ～ ニホンジカ捕獲調査の巻 ～

野生動物と人間社会との軋轢である獣害問題は多くの動物種との間に生じていますが、中でも最も被害の大きい種としてシカが挙げられます。農業被害額はおよそ40億円に達し、クマ、サル、イノシシの4種の中では被害金額が最も大きい種です。また、本種は生息密度が高くなると、高い採食圧から生息地域の植生や生態系にも影響を与えます。国および30以上の都道府県が特定鳥獣保護管理計画を策定し、個体数管理(管理捕獲)やモニタリングを行っています。現在、シカの捕獲は、地元猟友会による巻き狩り(10名程度で勢子と猟犬がシカを追い込み猟銃で仕留める方法)が主流です。

しかし、猟友会会員の高齢化や銃への規制強化の社会的風潮から、今後現状の捕獲数を維持することは難しいことが懸念されており、銃器を用いない安全で効率的な捕獲方法への期待が高まっています。そこで弊社では、捕獲技術の向上と、より効率的な捕獲方法の開発のために、実証試験に取り組んでいます。今回は、箱罾、囲い罾、追い込み捕獲の三種についてご紹介します。

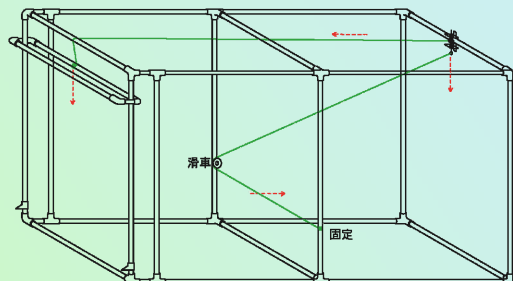
(調査部 金子賢太郎)



金属製のパイプとネットを利用した、片開き式の箱型罾です。中に誘引餌を置き、シカが中に入ると扉が閉まります。実際に雌ジカの生け捕りに成功しました。さらに、ビデオ観察により、シカが罾に出入りしている様子が確認されました。



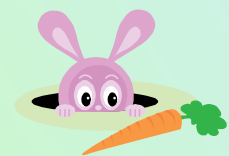
実際に使用した箱罾です。



箱罾はこんな仕組みです。




これは2頭のシカが一緒に中に入り、餌を食べている様子をとらえた映像です。



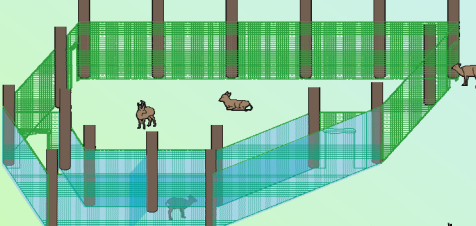
# 緑生瓦版

2009.05.01


第二十号




直径約 20m の囲い罠です。尾根筋のけもの道を囲むように設置しました。ネットの高さは約 3m で立木を利用して作りました。罠の中に誘引餌を置き、シカが罠の中を横切ると二つの出入り口が同時に閉まります。実際にシカの捕獲に成功しました。



囲い罠はこんなイメージです。



実際には囲い罠はこのような形で設置しました。



イラストのようにシカ道に網（張り網）を設置し、猟友会の協力により猟犬でシカを網に追い込んでもらいました。予定した捕獲地点にまでシカを追い込むことに成功しました。

**追い込み捕獲**

## アンケートのお願い！

Q.「緑生瓦版」のなかで取り上げてほしい内容や、ご意見、ご感想などを教えてください。

差し支えなければ、会社名、所属、氏名をお教え下さい。

会社名： \_\_\_\_\_ 所属： \_\_\_\_\_ 氏名： \_\_\_\_\_

ご協力ありがとうございました。  
 恐れ入りますが、アンケートの回答は、株式会社緑生研究所（坪山）宛に FAX（042-487-4334）でお願いいたします。

**編集後記**

お読みいただき、ありがとうございます。試行錯誤で始めた瓦版ですが、なんとか二十号を迎えることが出来ました。不十分な部分も多々あるとは思いますが、今後ともよろしくお願致します。

第二十一号は、七月一日の発行を予定しています。特集では『外来植物の防除』に関する取り組みを紹介します。

「うるさい」を漢字で書くと「五月蠅い」となる。たしかに調査中にまとわりついてくる蠅は嫌なものである。しかしなぜ五月なのだろう？七月や九月でも精神的な苦痛は同じなのに。それとも特定の種類を指しているのだろうか、もしそうだとしたら、相当すごい奴に違いありません。なんせ日本には三千種近い仲間がいるのだから。

